

音楽科学習指導案

日 時 令和3年5月28日（金）公開授業Ⅰ
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
2年B組34名
会 場 音楽室
授業者 赤 沼 周 子

- 1 題材名 雅楽の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性を理解して、雅楽のよさや美しさを味わおう。

教材 雅楽 平調「越天楽」 - 管絃 -

2 題材について

（1）生徒観

本校の生徒は、音楽の学習に高い関心・意欲をもって取り組んでいる。2年生は、1年時の鑑賞の授業において、知覚したことと感受したこととの関わりを基に音楽の特徴を捉え、学級で共有する際に他者の意見を聴き、再度音楽と向き合った時に実感できると記述した生徒が多い。このことから、個や協働により音楽的な見方・考え方を働かせながら鑑賞している生徒が多いと考えられる。

生徒は既習内容として、日本の伝統音楽の一つ「越天楽今様」を学習しており、昔から受け継がれてきた音楽があることは理解している。しかし、「日本の伝統音楽はどんな音楽だと思いますか？」というアンケートに、「難しい音楽」「曲がゆっくりで眠くなる」「言葉が分からない」と答える生徒が多かった。このことから、伝統音楽の学習はしているものの、伝統音楽のもつよさや美しさを述べたり、文化・歴史的背景を関わらせながら伝統音楽を感じたりするまでには深められていないと考えられる。

我が国の伝統音楽や郷土の音楽を取り上げることは、日本の伝統音楽に改めて向き合い、そのよさや美しさに気付くことができ、日本だけでなく様々な国の音楽文化を理解する態度の育成につながっていくと考える。目指す姿は、我が国の伝統音楽を珍しい音楽としてではなく、自分たちの生活に密着した魅力ある音楽として愛着をもって接するようになることであり、将来的には我が国の伝統音楽に自分なりの価値を見出し、自国の文化に対する見方をつくっていく姿である。今回、雅楽を取り上げることでそのきっかけとし、我が国の伝統音楽への理解、愛着をもつ姿勢を育みたい。

（2）題材観

本題材は、中学校学習指導要領＜第2学年及び第3学年＞B鑑賞の（1）ア（ア）、（イ）、（ウ）、イ（ア）、（イ）、（ウ）を指導のねらいとし、〔共通事項〕との関連を図りながら指導をすすめていく。

日本の伝統音楽である「雅楽」は、約1300年もの歴史を持ち、主に平安貴族の雅な宮廷楽として発達し、神社・仏閣でも伝承されてきた。また、日本最古のオーケストラともいわれ、管絃「越天楽」では、箏・笛・笙の吹物、琵琶・楽箏の弾物、鉦鼓・大太鼓・鞆鼓の打物が使用されている。旋律楽器の箏は人の声に近いとも言われ、「越天楽今様」を小学生の時に学習したことから結び付けながら聴くことで、生徒が合奏の中の主旋律に気付けるように指導したい。また、楽器の音色に気付くことで、重なり合っている他の楽器の音色も味わえるようになり、それぞれの和楽器の特徴にも気付くことができるようになると考えられる。また、唱歌（しょうが）（口唱歌とも）を歌ったり、実際に代用楽器での演奏を取り入れることで、雅楽特有の音の構造に気付くことができ、旋律やそれぞれの和楽器の特徴を聴き取ることで、雅楽に対する理解を深めることができると考える。

音や音楽そのものの他に、音楽の社会的・文化的・歴史的背景からも日本の伝統音楽に焦点を当て、生徒による唱歌及び代用演奏体験と鑑賞をリンクさせることで、音楽の構造や伝統音楽の特徴を意識した聴取につなげていきたい。

（3）教科研究との関わり（指導観）

研究主題「Society5.0を生き抜く『人間の強み』を育む学びの構想」のもとに教科研究主題を「心を動かし、音楽と向き合う生徒の育成」と音楽科を設定し、以下の三つの資質能力の育成に向けて研究を進める。
【思考力等】自らの感性を働かせ、音楽の特徴を深く知覚・感受しながら自らが感じ取った価値を自覚し、音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさを見出したりする力。

- 【協調性等】他者の表現や意見に耳を傾け、また、音楽のよさや美しさを知覚・感受し、自らの表現や聴き方に生かす力。
- 【主体性等】自分や社会にとっての音楽の意味や価値を追求しながら、よりよく表現しようとし、深く味わって聴こうとする力。

研究の視点①主体的・対話的で深い学び

本題材では、鑑賞だけではなく、唱歌を用いて小グループによる代用楽器での演奏を行う。協働して演奏することにより、雅楽特有のテンポ感や息の合わせ方、旋律の動き等に気づき、「越天楽」の鑑賞を行う際に各楽器特有の旋律やリズム、テクスチュアの知覚・感受が深まると考えられる。唱歌には、リズムや旋律や音色、そしてそれを表現するための奏法、奏法のための身体の使い方といった音楽表現のすべてが包含されており、唱歌を歌うことで、その音楽的な特徴を最初に丸ごとつかんでから音楽の習得に向かうことができる。また、知覚・感受したことを交流し合うことで、自分の考えがより明確になることや、他者の考えから、多様な視点を得て、価値の再構築が行われることにより、音楽を深く味わうことができる。そこで、日本の伝統音楽の特徴である音や音楽に対する美意識や、文化的・歴史的背景を認識させ、生徒同士の対話や、音や音楽による対話を通し、雅楽の特徴を体感させたい。

研究の視点②情報・情報活用技術の効果的な活用

本題材では、唱歌を記譜した楽譜を拡大でスクリーンに映し出すことにより、唱歌の一斉指導を行う。また、唱歌のDVD教材を参考に、それを手本にして模倣することで、本来の唱歌の形に近づけたい。第三時では、グループでの練習時の様子をiPadで録画し、今後、歌舞伎や能、狂言、文楽などとの比較ができるよう、振り返るためのツールとする。また、本時は教育支援アプリを使用し、生徒の考えや思考の様子を共有する場面で効果的に活用したい。

研究の視点③生活とつながる学び

我が国の伝統音楽をより魅力ある音楽として愛着をもって接することができるように、本題材では、実際に筆算の唱歌や打物を代用楽器（バストラム・締太鼓・当たり鉦）で表現することで、「本物の演奏に近くように真似る」という疑似体験を取り入れる。そのことから、西洋音楽とは異なる日本の伝統音楽のよさや面白さをより実感を伴って理解できると考える。また、地域の祭りである「さんさ踊り」でも唱歌が用いられていることを紹介し、唱歌を身近なものとして捉えさせたい。さらに鑑賞時では、知覚・感受したことを交流し、協働的に考えていくことを通して、個人の知覚・感受を確かなものにしていきたい。

3 題材計画

（１）題材の目標

- ・雅楽の曲想と雅楽の音楽の構造との関わりについて理解する。【知識】
- ・雅楽の音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したものととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽の良さや美しさを味わって聴く。【思考・判断・表現】
- ・雅楽の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】

（２）評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【知】 雅楽の曲想と雅楽の音楽の構造とのかかわりについて理解している。	【思】 雅楽の音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したものととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽の良さや美しさを味わって聴いている。	【態】 雅楽の音楽の特徴と、その背景となる文化や歴史に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

(3) 指導と評価の計画 (○形成的評価 ●総括的評価)

時	◇学習課題 ・学習活動	関連する評価の観点			見取りの視点 【評価方法】
		知技	思判表	態度	
1	◇雅楽のよさや美しさを探ろう。 ・雅楽 歴史と楽器について学習する ・「越天楽」を鑑賞する	○			雅楽の歴史・楽器について理解し、曲の全体像をつかんでいる。 【記述内容・行動観察】
2	◇箏の唱歌を歌い、その特徴を知ろう。 ・雅楽の伝承方法について知る ・特性を感じ取りながら唱歌を身体で丸ごと体験する ・「さんさ踊り」の太鼓にも唱歌が用いられていることを知る	○			箏の唱歌を歌い、その特徴を理解している。 【記述内容・行動観察】
3	◇「越天楽」の一節を表現し、雅楽の雰囲気味わおう。 ・箏の唱歌と打物の動きを確認する ・「越天楽」冒頭部分を代用楽器で表現する	●	○		箏の唱歌に合わせながら打物を表現し、楽器の重なりの特徴をとらえている。 【記述内容・行動観察】
4 本時	◇「越天楽」の一節を体験しながら、雅楽のよさや美しさ味わおう。 ・「越天楽」冒頭部分を代用楽器で発表する ・「越天楽」を鑑賞する		●		各々の演奏を振り返り、雅楽の曲想と音楽の構造との関わりを手掛かりにし、曲の特徴や魅力を見つけている。 【記述内容・行動観察】

4 本時について

(1) 本時の目標 (ねらい)

雅楽の音色、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

(2) 評価規準

雅楽の音色、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 【思考・判断・表現】

(3) 授業構想

生徒は、1年時の器楽「箏」において、日本の伝統音楽の楽譜は西洋の五線譜とは異なる独特のものであり、唱歌を伝承してきたことを学習し、実際に箏の唱歌も歌った。今回、唱歌を記譜した楽譜も示すが、楽譜が苦手な生徒には唱歌で真似ることで楽器演奏への抵抗感を緩和し、身体で音楽を覚える経験にすることができる。

唱歌はもともと身体で学ぶ口頭伝承を基本とするものであり、唱歌を取り入れることで、音楽を身体で丸ごと模倣して体感するという唱歌最大の魅力と意義が存在することになると考える。そして代用楽器であっても、実際に演奏することで、各楽器の音色の多様性に加え、入りが「ずれている」のではなく「合わせている」という雅楽最大の特徴を体感させたい。

また、鑑賞を通して雅楽の「よさや美しさ」を味わうことを目標としているが、聴き馴染みのない音楽に対して、違和感を覚える生徒もいる可能性が考えられる。その際にはグループでの交流時に、「どんなところに」違和感を覚え、普段好んで聴いている音楽とどんなところが異なるのかを考えさせることで、雅楽に対する理解を深めていきたい。

(4) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	指導上の留意点および評価 ・指導の留意点 ○評価
導入 5	1. 「越天楽」の一節における箏箏の唱歌、打物の表現を確認する ・代表のグループが演奏する	・他のグループは全員で箏箏の唱歌を歌う
展開 40	「越天楽」の一節を体験しながら、雅楽のよさや美しさを味わおう。	
	2. 「越天楽」を鑑賞する① ・「聴くこと」に集中し、メモは最小限とする 3. 自分が感じた「よさ 美しさ」についてグループで交流する 対話の視点：どんなところが「よさ 美しさ」と思ったか ・楽器の重なり方 ・楽器が増えて迫力が増す ・各楽器の音色 ・「間」の存在 など 互いの意見を出し合い、メモをとりながら交流する 4. 「越天楽」を鑑賞する② ・「聴く」ことに集中する 鑑賞の視点：3 で出された内容が「よさ 美しさ」だと実感できたか 5. 再度グループで交流する ・3 の内容を確認しての意見交流 6. 「越天楽」を鑑賞し、よさや美しさを味わう 鑑賞の視点：越天楽のよさや美しさは何だろうか ・代用楽器による演奏から気づいた雅楽の楽器の重なり方 ・雅楽の拍感について ・唱歌が演奏にもたらす効果 ・各楽器の音色 ・それぞれ聴き取った内容から得られた雰囲気 など	・CD での鑑賞とする ・メモ程度の記入は可能とする ・他の人と意見を交流し、各々が感じたよさや美しさを知る。交流した内容を 4. の鑑賞の視点とする ・CD での鑑賞とする ・交流した内容の確認を含め、再度曲と向き合う ・メモ程度の記入は可能とする ・新たな発見がないか、他の意見について、自分はどう感じたかなど交流する ○学習プリントへ記入 ・これまで学習した内容を踏まえ、雅楽の魅力について音楽の特徴や背景などと関連づけながら記入している。 ・学習支援アプリで集約し、共有する
終結 5	7. 振り返り ・雅楽の学習を通して学んだことをプリントに記入し、発表する。 【記述させたいこと】 ・西洋の音楽とは異なり、一つ一つの楽器が重なっていくように旋律が演奏されている。 ・打物を体験してみて、「ずらして演奏している」よりは、微妙なタイミングで重なって聴こえるようにあえて「合わせている」と感じた。 ・ずれているのが自然な感じがする。それを利用してあえてためて音を出しているところがあり、余韻を感じることができる。 ・音楽には貴族の豪華な暮らしなど、その時代背景が反映されていると感じた。など	・振り返りを記入し、プリントを提出する

【参考資料】

- ・日本音楽の教育と研究をつなぐ会（編著）、徳丸吉彦（監修）（2019）『唱歌で学ぶ日本音楽』東京：音楽之友社。
- ・芝 裕靖（監修）（2006）『図説 雅楽入門辞典』 柏書房。
- ・岩手県教育委員会、（2021）『「指導と評価の一体化」に向けたハンドブック』
https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/038/477/sassibann.pdf
 （2021 年 5 月 21 日最終閲覧）。